

# 日本点字事情 かわら版

横浜市立  
盲特別支援学校  
点字研究部  
文責 道村静江

2008年1月9日発行 NO.73

新年明けましておめでとうございます。年末年始はどのように過ごされましたでしょうか。教員にとっては1月～3月は年度の締めくくりと新年度準備に向けて怒濤のような日々が続きます。そのための英気を養われましたでしょうか。

さあ、今年も張り切っていきましょう！

## 試験問題の点字表記 その3

### 1. 書き方の形式

#### (1) 試験問題のタイトル

一般の文書と同様である。試験の名称や教科・科目名は6マスあけて書き、2行にまたがる場合は、さらに2マス下げて書く。タイトルの後は空白行を1行入れる。

#### (2) 問題番号

4マスあけて大問番号を書き、問題文は次の行から行頭2マスあけて書く。大問番号に用いる数字は、原問題がローマ数字の場合には点字でもローマ数字とし、それ以外の数字の場合には差し支えない限り、裸数字を用いる。(墨字問題作成時も大問番号には裸数字を使うようにするとよい。)

定期試験など大問題がいくつかある場合にはこの書き方にするが、簡単な小テストや小問がない場合などは、2マスあけて問題番号を書き、同じ行に問題文を書くこともできる。

#### (3) 各問題の配置や区切り

基本的に大問題ごとにページを改める。校内の簡単な試験問題では、空白行や区切り線を活用して書き続けることもできるが、読みやすさ、検索のしやすさなどを考慮してレイアウトを決める。また、ページをまたがって設問や選択肢などを提示することはできるだけ避ける。

試験問題作成に際しては、用紙の節約を考えるよりも、読みやすさを優先して用紙を贅沢に使ってよい。また、机上に問題を広げるスペース等を考慮すると、片面書きで作成するのもよい。

### 2. その他、点字化に当たって配慮する事項

#### (1) 文章中の位置の指示、解答の仕方の指示

設問の指示が点字問題として不適当な場合は、点字で誤解がなくやりやすい方法に替える。

「上の」「下の」「前の」「後の」  
 「右の図を見て」「下の表のように」  
 「p 3の図1を見て」「p 4の表2のように」  
 「記号をマークしなさい。」「記号を答えなさい。」  
 「作者名を漢字で答えなさい。」「作者名を答えなさい。」  
 「A群の語句と関係のあるものをB群から選び、線で結びなさい。」  
 「A群の語句と関係のあるものをB群から選び、その記号をA群の番号と共に書きなさい。」  
 「次の各文が正しい順序になるように、( )の中に数字を書きなさい。」  
 あらかじめ( )の中に記号を入れておき、  
 「次の各文が正しい順序になるように、記号を並べ替えなさい。」

## (2)ある箇所を検索するための頁や行の指示の仕方

長文の問題文の中に含まれている空欄や傍線・下線などを、さかのぼって検索する必要のある場合には、その検索を容易にするために、設問文の最後に、空欄や下線などの符号の始まりのページと行を次のように付記する。

⋮⋮⋮⋮⋮□⋮⋮⋮⋮⋮ ( p 4 1 5 )

⋮⋮⋮⋮⋮□⋮⋮⋮□⋮⋮⋮⋮⋮ ( p 5 □下□ 1 6 )

行を数える場合は空白行も数える。ページは行に数えない。下から数える場合には、実際に書かれている最後の行を下1行目とする。

## (3)解答に字数制限や文字や言葉の指定がある場合

次の要領で設問の一部を変更する。

「何字を文中から抜き出せ(句読点も1字として数える)。」のように、正解が決まっている設問は、まず原問題の設問を記し、それに続けて第1カッコなどで囲んで「点字 マス」のように付記する。この場合、濁音・拗音などのマス数、記号・符号のマス数、分かち書きのためのマス数など、点字の表記に従ったマス数を数える。

「漢字2字で記せ」などの場合は、「漢字2字に相当する言葉で記せ」などとする。

「最初と最後の 字を記せ」などの場合は、「最初と最後のそれぞれ2文節を記せ」などの指示に替える。

感想など大まかな字数制限がある場合は、原問題の字数を示した後で、その1.6～1.8倍で計算し、端数は5または10に切り上げたマス数を「点字 マス程度」と指示する。

## (4)同音異義語や難しい漢語の説明

同音異義語や漢字を見ればその意味が容易に推測できる語でも、点字では意味が分かりにくい語句には、点訳者注を付けて漢字の説明や語句の意味を補うなどを考慮する。

黙許であった。 モクキョ⋮⋮⋮ダマツテ□ミトメル⋮⋮⋮デ□アツタ。